

アジアにおける原子力基盤に係る研究・協力の中核機能強化

1. 背景

アジアにおけるエネルギー需要の増加に伴う地球温暖化等の環境問題は、アジア共通の課題であり、原子力先進国である我が国が課題克服にリーダーシップを発揮していくことは、持続可能な発展、地域の安定性確保の観点から意義がある。また、アジアにおける原子力基盤に関する研究ネットワークを構築し、我が国がその知恵と技術を生かし、アジアに貢献していくことは大きな意義がある。

2. 課題概要

日本原子力研究開発機構の材料試験炉(JMTR)をアジアの原子力基盤研究拠点として位置付け、材料試験炉としての機能を高度化するための技術開発を通して、アジア諸国への原子力導入のための基盤の形成・技術力の向上や原子力人材育成に貢献する。育成された人材を核として、研究・協力ネットワークを形成し、国際協力による研究開発を展開する。

3. 期待される成果

上記技術開発をアジア諸国の優秀な人材とともに実施することを通じ、JMTRの原子力基盤拠点機能の強化のみならず人材育成が可能となり、育成した人材を核とする研究・協力のネットワークの形成によってアジア諸国の原子力技術レベルの向上や地球温暖化や環境問題の解決の対策を講ずることができる。これらを通じ我が国のリーダーシップを示すことが可能になる。

原子力政策大綱
(平成17年10月11日)
5-2-1. 開発途上国との協力
開発途上国協力に関しては、相手国の原子力に関する知的基盤の形成、経済社会基盤の向上、核不拡散体制の確立・強化、安全基盤の形成等に寄与することを目的とし、(中略)原子力発電導入のための準備活動等に関する協力を引き続き進めるべきである。
我が国が主体的・能動的に協力を行う国・地域は、地政学的にも経済的にも緊密な関係を有するアジアを中心とする。

アジアゲートウェイ構想(平成19年5月16日)
「最重点項目10」

10. アジア共通課題に関する協力・研究の中核機能の強化
～ 環境・エネルギー等に関する協力・研究ネットワークの構築
○環境・エネルギー(中略)などアジア共通課題の解決に向け、国際会議・フォーラムの開催、国際共同研究の実施、国際研究拠点機能の強化、ICTの活用等あらゆる方策を用いて、日本を核とする域内外の情報・人材・科学技術のネットワークの構築を進めるべきである。

